

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月25日(水)

### 《自己統合》

主の平和

先ず、今日の福音(マタイ 23・27-32)をもっと深く理解するために、ひとつの聖書的な常識について申し上げたいと思います。

今日の福音で「白く塗った墓」という表現ありましたね。イエス様はファリサイ派の人々と律法学者達を「あなたたちは、白く塗った墓と似ている。」そのように表現なさいました。

その当時、(今もそうだと思いますが)イスラエル人の考え方の中では墓とは死につながっています。ですからその死を、腐った体、骨を不潔なものとしていつもいみ嫌ったのです。墓を白く塗ったその理由は、真夜中でも人がそこを通る時、その墓に触れないように、よく見えるようにしたわけです。白く塗って誰が見ても「ああ、あれは墓だ」と知らせるために必ず白く塗ります。白く塗ればやっぱり表面は綺麗に見えます。しかし、その中には腐った体と骨があるわけです。その靈魂は、魂はすぐに出てしまって、そこにはただ腐ってしまう罪の塊しか残らない。そういうものとしてイスラエル人は考えたわけです。ですから、ファリサイ派の人々と律法学者達をイエス様は、「白く塗った墓のようなものだ」と例えたのです。

次に、あなた達は先祖の悪かったことを、色々人々に教えているけれども、教えながら自分の振る舞いや、考え方は直そうともしないで、ただ教えは教えとして、自分達は全然違う振る舞いと考え方を持っている。「先祖は悪かったと言いながらも、もっと悪い事を試しながらやっている。」というのがイエス様の批判の内容です。

さあ皆様、中と外、裏と表、が違う事を四つの熟語でなんと言いますか。それは「表裏不同」と言います。中と外、裏と表が違うこれを私達は「偽善」と言います。中は腐って汚いものに満ちているけれども、外では笑顔を見せる、うわべだけ善人に見せかけている人々、そのような人々を「偽善者」といいます。正式な「偽善」の意味です。

私達は普段の生活の中で、中身はいい人なのに、たまに表現がちょっと硬い人に出会いますよね。中はものすごく優しいけれど、何か表面は硬くて冷たくて、近づき難い人が結構いますよね。うちの教会にも七人ぐらいいます(笑い)。けれどもこういう人を偽善とは言いません。これは性格の問題でしょう。心理学的な用語では未熟と言います。中が素晴らしかったら外に現れます。しかし、適当ではない恥ずかしさを感じてか、優しい人であることが分かるけれども、いつも否定的なものの見方をして、反対する人がいます。それも一つの病気です。その七人の方をもし見つけたら優しく説明して下さい(笑い)。直さなければいけませんね(笑い)。

とにかく、心理学とか霊性神学で使われている一つの言葉があります。それは「自己統合」という

言葉です。どういう意味ですか。「統合」とは二つか三つ、それ以上のものをひとつにまとめることを言います。そして、「自己」は自分自身の自己です。先ず頭と心が別々に動いている人がいます。頭は冷静で論理的で、心もやわらかくて善い心をもっている人がいます。しかし、これが別々になったらその人の人格もまだ熟されているとは言えません。これが一番難しいことです。次は何の統合が必要でしょうか。先ず頭と心、次は？「振る舞いです。」この三つのものが一つになったら、その人は「自己統合」が出来ている人と、霊性神学では言っているのです。

私も神学生の際に自分の個人的な指導司祭に言われたことはそれでした。「あなたはね、頭、心、振る舞いが全部違う。」この言葉を聞いて本当に苦しかったのですが、認めなければならなかったのです。よく自分の中に入ってみるとこの三つがばらばらになっています。皆様もそういう気持ちになる時があると思いますよ。「何故、私は考えと振る舞いが違うのか。」「私は嘘をつきたくはないけれど、自分も知らないうちについてしまう。」「私は、その人に優しさをみせようとしたけれど、何故か反対の振る舞いをみせている。」それは「自己統合」が出来ていない証拠だそうです。ですから私達が祈る心、そして、正義に対して正しく考えなければならないその頭の動き、そして、それで止まるのではなく、具体的に実践しようとするその振る舞いが必要であること。これは難しいです。もし、この三つが統合されたら、その人こそ聖人かも知れませんね。本当に難しいことです。

今日はちょっと難しい話しになっているのですが、この“自己統合のために私達が淡々と努力する”それが信仰の歩みだと思います。実際にこの三つが統合されている人々がたまにみえます。しかし私達は、自分の足りなさを認めながら、少しずつその「自己統合」に向かって歩まなければならないと思います。

今日、ファリサイ派の人々とか律法学者達がしかられたその理由は、自己統合の問題ではありません。偽善の問題です。これは基本から悪く育って来た、養成された者達に対してのイエス様の話です。しかし、「正しい信仰を持って生きたいのです。」という望みを持っている私達に必要なものは、偽善という言葉遙かに越えて、何よりも自分の中の一致のために、「頭と、心、振る舞い」とを一つにする作業が必要ではないかと、今日の福音を通して考えてみました。「自己統合」この言葉を覚えて頂きます。

「自己統合」のために霊性神学者達が皆、殆ど同じように一つのことを話されています。その内容は練習が必要だということです。その練習は祈る時間を持つ練習だそうです。本当に練習によって正しく祈る方法を悟り、その中で自分全体が一つになるその体験が出来るのが、いわゆる霊的な体験だそうです。皆様、私も含めてこの練習のために努力しなければならないと思います。

結局、信仰は祈りにつながりますよね。そして、その練習が上手くいくにはもう一つの条件があります。それは“イエス様に対しての愛です。”イエス様を求める心がなかったら絶対に祈りは出来ません。そういう全体的な文脈で考えて下さい。

ありがとうございました。